

令和4年度 第2回 舞阪中学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年7月11日（月） 13時20分から15時00分まで
- 2 開催場所 舞阪中学校 1階 会議室
- 3 出席委員 渡邊 東一、鈴木 孝一、江間 雅尾、小内 正枝、片桐 美恵子、本多 有美、  
佐々木 雄一
- 4 欠席委員 河合 數馬
- 5 オブザーバー 河合 一徳（舞阪協働センター副所長）
- 6 学 校 中村 真由美（校長）、川合 公孝（教頭）、鈴木 朱美（教務主任）、  
榊原 大輔（CS担当職員）、宮崎 友貴（CSディレクター）
- 7 教育委員会 小川 誠司（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項

（1）学校評価の評価項目案について

- 10 会議録作成者 CSディレクター 宮崎 友貴
- 11 会議記録

司会の榊原大輔（CS担当職員）から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。議長は前回承認された小内正枝委員が務めた。

（1）学校評価の評価項目案について

議長の指示により、中村真由美校長から、別紙資料に基づき、今年度の学校評価の評価項目案について説明があった。これを踏まえて議長から、そもそも学校評価とはどのようなものだろうかとの質問があり、教育委員会の小川（教育総務課）より学校評価についての説明があった。

各委員が個人で熟考した後、委員から以下の発言があった。

- ・このようなアンケートで本当に子供の実態が見えてくるのか。回答に対してなぜそう思ったのか掘り下げて聞かないと、そこに至った真の原因はわからないのではないか。（鈴木委員）
- ・このアンケートにどこまで信憑性があり、意義があるのかと思う。（片桐委員）
- ・アンケート結果がどれだけ学校経営に生きるのか、子供達が実際に学校や地域でどういった生活を送るのかに結びつけないと、ただアンケートを実施しただけになってしまう。（鈴木委員）
- ・昨年度の項目は子供がわかりやすく答えられる内容ではなかった。今年度は自分を見つめ直せるものになるとよい。（江間委員）
- ・学校は生活アンケートやいじめアンケート、日々の日記などで子供の個々の様子は把握しているだろう。この学校評価アンケートは学校全体の傾向を大まかに知るためのものでよいのではないか。（渡邊委員）

- ・学校評価アンケートの立ち位置を確認できてよかった。(小内委員)
- ・このアンケートを継続的にどう生かしていくのかが見えない。(鈴木委員)
- ・傾向を知った後に、どこに重点を置いてやっていくか考えねばならない。(江間委員)

議長より、学校の“強み”や“弱み”とは、何と比べたものであるのかと質問があり、川合公孝教頭から、過去のアンケート結果の数値と比較して「良くなった」「悪くなった」と示していると説明があった。続いて、これまでは学校のみで行っていた学校評価アンケートを、今年度はこの協議会でアンケート項目を考えてもらいたいと発言があった。その後、委員が2人もしくは3人のグループに分かれて熟議を行った。委員からの発言は、以下の通りである。

- ・主語は全て統一した方がよい。とりあえずの傾向を知るためならば文言はこのままでよい。(鈴木・江間委員)
- ・「成長」とは具体的に何の成長なのか、定義を明確にした方がよい。しかし、大雑把な言葉の方が傾向を知るには良いこともあるので、そのままの文章でよい場合もある。(具体化するとそれのみの評価になってしまう。)(渡邊・本多委員)
- ・部活動や校外での活動に意欲的であるかという問いは、どこにも所属していない子供は答えられないのではないか。(渡邊・本多委員)
- ・主語だけを変えて3種類のアンケート(生徒、保護者、職員)を作ると文章や意味のおかしい項目がいくつかある。内容が似ている項目は統一し、代わりに「舞阪」という地域性を意識した項目を入れたい。(片桐委員・佐々木委員)
- ・授業が楽しいかという問いは保護者にはわからず答えられないと思う。(片桐委員・佐々木委員)

議長より、今回の熟議を次回に生かしていきたいとの発言があった。学校評価の評価項目案は委員からの意見を踏まえて修正し、次回の協議会に提出する。

#### その他報告事項等

川合公孝教頭から、今後の開催日時について、第3回の会議は開催日を変更し、令和4年11月15日(火)午後1時から1階会議室で開催する旨の報告があった。

なお、協議内容については、学校評価項目案を決定する予定である旨の説明があった。

第3回議長の選出について、議長から片桐委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。